

算命学中庸

【初年】 29 回目

29 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【十大主星特性①】

【初年】 29 回目 【十大主星特性①】 01

ここからは「^{じゅうだいしゅせい}十大主星」の『^{とくせい}特性』をまなびます

⇒ 貫索星・石門星

^{かんさくせい}貫索星と^{せきもんせい}石門星は守備本能の星です。

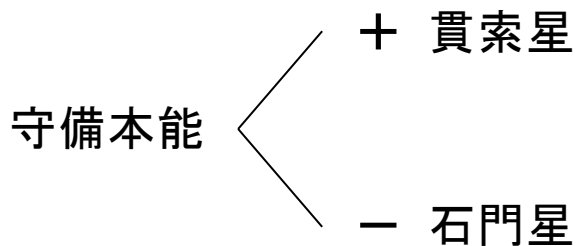
☞ 28 回目 【十大主星の概要】 04 ⇒ 十大主星の概要を下記します。ということで

十大主星について記載されています。それを併用するとよいでしょう。

「十大主星」にも五行（木火土金水）があり、その順序で説明します。

守備本能は自分を守ろうとする本能です。

守備本能にも（陽）と（陰）の星があります。



＋の守備本能を貫索星、－の守備本能を石門星といますが、この星の意味合いをいうときには、陽と陰の違いを考える必要があります。

【三つの礎】 その(3)陰陽論でまなびましたように――

「主体性のあるほうを陽とする」という規範きはんがありました。本能を考えるときも、星を考えるときも、常に「主体性のあるほうを陽とする」ということです。

辞書・主体性〔行動するとき、自分の意思や判断に基づいて自覚的であり

そういう態度や性格をいう〕

“守り”について考えると、自分を守ろうとする守り方にも、大きく分けると、二通りあるのです。

☞ 1つは「自分の力で自分を守る」というやり方です。

^{ひと}他人に助けを求めずに、自分のチカラで自分を守ります。

☞ 1つは「協調して自分を守る」というやり方です。

^{ひと}独りでは^{こころもと}心許ないから、まわりの人と一緒に、あるいは仲良く友達になって、仲間を増やして、その協力で自分を守ろうとするやり方です。

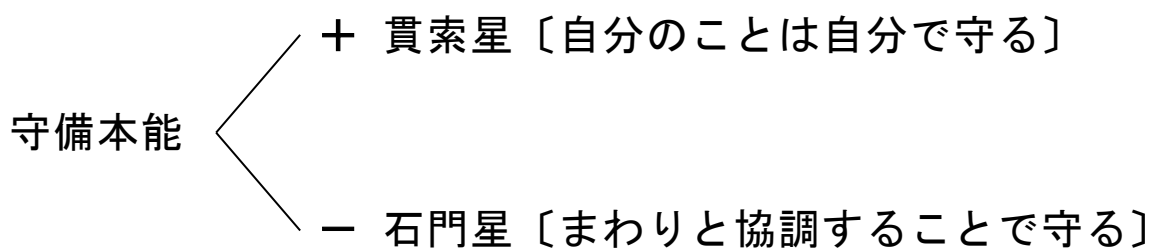
どなたでも、程度の差はあるでしょうが、両方の守り方をつかったことがあるかとおもいます。

子供のころでも、あるいは、大人になって会社とかでの社会生活を送っているときに、自分のことは自分で一生懸命に守り、自分の立場を自分のチカラではっきりさせなくてはいけない。ということもあるでしょう。

ときには、なるべくまわりの人たち仲良くして、友達になって味方を増やして、その人たちと協調しながら自分を守っていくというやり方もありますよね。

この二通りの守り方を比較したときに、どちらのほうが主体性のある守り方なのかといえば、自分で自分を守るほうが主体性はあります。

貫索星（陽）は、自分で自分を守るという守備本能です。



石門星（陰）は「他と協調して自分を守る」という意味があります。

仕事であろうと、私生活であろうと、まわりの人達と、仲良くしていたほうが、自分の立場とか、あるいは、自分の生活そのものが安定します。

まわりと喧嘩して、誰とも協調しないとなれば、自分の守りはしっかりしません。

会社に入っても、まわりの人たちと仲良くして、協力して物事を進めるほうが信頼感も高まるでしょう。

ただし、そういう守り方は、まわりと協調しなくてはできませんから、自分の主体性をあまり押し出せないといえます。

石門星をもっている人の気質の内面には強さがあるのですが、その質を前面に押しださない傾向があるということ、念頭において占うことになります。

辞書・協調 [互いに力を合わせて、助け合うこと。利害の相反する双方が協力して問題を解決すること]

“まもり”ということでは、おなじであっても [自分のことは自分で切り抜けていく、自分の立場は自分で守る] という、人を頼らないで自分でやっていくという主体性のある守りは、他人を頼りませんから自分自身のチカラを十分に発揮できます。

このように [貫索星] と [石門星] の守りは異なります。

「十大主星」それぞれに特性がありますが、それは各星の（陰）と（陽）の違いを含めて決まったのです。

☆ 貫索星

貫索星はすでに少しやりましたが、守備本能の^{ようせい}陽星です。

貫索星 ⇒ 守備（陽）

「自分で自分を守ろうとする星」なので、主体性がある守備本能です。

人を頼らず自分で自分を守ろうとする ⇒ 独立心

貫索星はまわりと協調しないで、自分で自分を守ろうとするので、独立心が強い人です。といえます。

これは言葉を変えれば：

自分のことは、自分でやろうとする人です。

人を頼ろうとしませんから、意志が強くないとできません。貫索星は意志が強い星です。

意志が強い

一旦、こうと決めたら、まわりがなんといおうと、^{つらぬ}貫くという質をもちます。

意志が弱いと……なにかと人に頼ろうとします。

だからといって、協調して守る星〔石門星〕が弱いとか悪いとかいうことではないのです。

貫索星は意志が強く、人を頼らないでやっていく、独りでなんでもやろうとする人です。

その質をいいかえれば、単独行動が得意な人といえます。

単独行動が得意

みんなと一緒に行動するよりも、単独で行動するほうが
性に合っています。

単独行動が得意……貫索星の特徴です。

同僚・友人に進度を合わせることなく、自分のペースで
何事も押し進めようとする人になります。

マイペース

これらはすべて貫索星の特徴ですが、どれも似たような
意味が含まれています。つまり、共通するおなじような
意味合いが少しずつ含まれているといえます。

これらを統合して、“頑固”という言葉をつかいます。

ようするに“頑固な人”と考えられます。

貫索星を“頑固な星”といいます。

頑固 (がんこ)

貫索星が人体図に 1 つあるだけでも「ああ頑固よね」とかいますが、いくつもあるような人は、とても頑固な人になります。

＊ 小泉 純一郎 1942(s17)1-8

					1 庚子
	辛 辛 辛		貫索星	天極星	11 己亥
子	酉 丑 巳	貫索星	鳳閣星	玉堂星	21 戊戌
丑	癸 戊	天祿星	貫索星	天印星	31 丁酉
	辛 庚				41 丙申
	辛 己 丙				51 乙未
					61 甲午
					71 癸巳

前総理・小泉さんの人体図をみると、貫索星が 3 つもあります。非常に頑固で意志も強いです。

自分のことは自分でやろうとしますし、単独行動も得意でマイペースです。閣僚を決めるときも、誰にも相談しないで、すべて独^{ひと}りで考えて、自分で決めたそうです。

政治家としては、それでいいかも知れないですけど……私生活を考えると、結婚相手の女性は大変です。

この人について行く奥さんは大変です。

貫索星3つということもありますけど、彼の宿命は特別ですから、ふつうの女性は弾^{はじ}き飛ばされてしまいます。普通の女性では、まず、ついてはいけません。

彼の場合は離婚しています。

貫索星が悪い星とか、一切論じていませんよ。

小泉氏の宿命の特徴なのです。

結婚ということでは、相手がよっぽどの星をもっていないと難しいです。

貫索星には“頑固”という部分に特徴があり、融通は利きません。そういう面があります。

融通がきかない

人生の途中で、方向転換は難しいです。

〔たとえば〕 ふつうの人物であれば、転職するとか——私生活でいえば、離婚して再婚するとか——そのようなときに、舵を切って大きく人生を転換して、というような生き方は、あまり得意ではないです。

一つの物事をずっと貫^{つらぬ}いていく、そういう生き方は得意ですけど、融通がきかない側面をもっています。

人生の方向転換は得意でない

小泉さんは、ロンドンに留学していたときに、父親が急に他界したので、日本に帰ってきて政治家になりました。それからはずっと政治家です。一つの仕事をズーっと貫く、そういう生き方は向いています。

もし……何かの理由で、転職しなくてはいけないとか、まったく違う世界に行かなければならない（職場もそうですが）、そういうふうになると、生き方は難しくなります。

〔たとえば〕 貫索星がいくつもあるような人が、突然に会社をリストラされた。そうになると、立ち直るためには

相当な時間を要します。

急に方向転換できないのです。

会社を移ろうとしても、簡単にはいかない人です。

貫索星の一途さ、頑固さ、そこが良いところでもあるのですが、場合によっては“手かせ足かせ”という欠点にもなります。

そして、単独独行動が得意でマイペースということは、いいかえれば、協調性に欠けます。

協調性に欠ける

主星に貫索星がある人、あるいは、貫索星がいくつもあるような人は、協調・共同の資質に欠けます。

単独独行動が得意で、独立心が強いので、組織を頼らないで、自分一人で出来る仕事を独立して何かをやる。そういう生き方に向いています。

仕事は独立する ⇒ 自分一人で出来る仕事

サラリーマンになって、組織のなかに入ったとすれば、自分のペースで出来るような職場がよいのです。

サラリーマンであっても ⇒ 自分のペースで出来る仕事

そうであるなら向いていますし、実力を発揮できます。

いつも誰かとチームを組んで、一緒に行動しなくては
いけない、組織の一員としてやっていかななくては
いけない。
そういう仕事には向いていません。

端的に言えば、部署にもよりますが、サラリーマンで
組織の一員として、生きていくには向かないですね。

貫索星がもつ意味合いを書いていますけど、一番の基に
なっているのは、『守備本能の陽』という部分です。

「十大主星」の場合、（陽）なのか、（陰）なのか、ここ
は重要なところなのです。

貫索星 ⇒ 守備（陽）はじめに書きました。ここが最も重要です。

それぞれの「十大主星」は、その本能が（陽）なのか、
（陰）なのか、決まっています。

そこを基点にして、その星の意味合いが、全部出てきて
いるのです。十大主星を考えると、（陽）か（陰）が大事な
んだと、^{いま}現在は思っておいていただければよろしいです。

そこで考えて頂きたいのですが……、

貫索星をもつ人物は、どのようなときに、より頑固になるとおもいますか……？

頑固な人の心の窓を、少しでも開かせるには、どうしたらよいとおもいますか……？

どうすれば、より頑固で意固地になっちゃうのか？

どうすれば、心を開いてくれるのか？

守備本能の（陽）は自分で自分を守ろうとする本能です。

どういう状況になると自分を守ろうとするのでしょうか。

^{ひと}他人から攻撃されたときです。

相手から攻撃されたとき ⇒ 守備本能を発揮する

守備本能ですから、誰かが——自分を攻撃しようとしなければ、守る必要はないわけです。

守る必要がなければ、頑固な質もあまり強くは出ません。

あるいは、言葉を変えれば、批判されたとか——、

相手から批判されたとき ⇒ 守備本能を発揮する

りふじん
理不尽に相手から文句をいわれた。相手から非難された。
とかであれば……自分を守らなくてははいけません。
攻撃されていなければ、自分を守る必要ないですよね。
ですから、相手から何かしらの攻撃を受けたときほど、
意固地ともいえるほど、より頑かたくなになります。

貫索星をもっている人に、「あなたはホント頑固で、どう
しょうもないわね」とか「人のいうことに耳かさないの
ね」とか、いえばいうほど、より頑固になっていきます。
そうになると、貝のようにピタッと閉じて、心をひらきま
せん。

貫索星の人に“いうことをきいてもらいたい”と思うの
であれば、批判や攻撃をしてはいけないのです。

貫索星の人に対して、「貴方の意見には賛成だわ」とか、
「貴方のいうこと、確かにその通りね」と、いってあげ
ると、貫索星は自分を守る必要はないので、頑固になら
なくなって、「わたしも悪いところあったわ……」とか、
そういうふうになっていくのです。

貫索星をもっている人がいて、そのような状況に遭遇したときはやってみてください。

そうしますと、何本能には……こういう意味合いがあるということを理解できていれば、いろいろ応用ができるようになります。

このことは、^{いま}現在すぐに、全部を解らなくても、大丈夫です。貫索星の質はこうなのだと、考えて学んでいくと、人体図を見ただけで、この人を喜ばせるには……とか、困らせるには……とかがわかるようになります。

あるいは、この人物に好かれるにはどうしたらいいとか、そういうところも解るようになってきます。

なんで頑固という意味になるのか……そこの横たわっている質を理解するとよいでしょう。

貫索星の人を説得しようと思ったら、星の意味を考慮して、その本質に沿ってあげるほうが、素直な気持ちで受け入れてくれます。

貫索星の人に「あなたのいうことって、まったく理解できないわ」といって批判すると、よけい意地を張って、ちょっとしたことにも、頑固になってしまうのです。

⇒ 「十大主星」はすべて人物に置き換えることができます。〔その星は誰になる〕という人物が決まっています。貫索星は、兄弟の星、もしくは、友人の星としてみます。

貫索星の人物 ⇒ きょうだい・友人

ちなみに〔どうしてこの星が、この人物になるのか〕というのは、「六親法 ろくしんほう」という技法が算命学にあるのです。いずれ習いますから、そこで理解できます。

六親法を^{もとい}基にして、人物は決まっている

〔たとえば〕玉堂星は母親の星で、禄存星は父親の星、司禄星は妻の星、牽牛星は夫の星というように、その星に相当する人物の意味も決まっています。

「研究専科」で六親法をまなびます。

なぜ〔この人物になるのか？〕

それは六親法を用いて出てきた人物である。そのように現在はおもっています。

☞ 陽占人体図をみて、人物の占いをするようになっていきますが、まずは基本だけ申し上げておきます。

〔たとえば〕人体図に貫索星をもっている人は「宿命に兄弟・友人の星がある」という意味になります。

宿命に兄弟の星があるわけですから、兄弟に縁^{えん}がある人です。というふうに考えてください。

宿命にある星の人物とは、縁があると考えます

父親の星〔禄存星〕がある人は、父親と縁がある人ですし、母親の星〔玉堂星〕をもっていれば、母親と縁がある宿命です。ということになります。

小泉氏は貫索星が3つあります。

兄弟の星が3つもあるということは、兄弟との縁^{えにし}が深い（とても兄弟と縁がある）人といえます。

小泉さんには、姉が二人います。

彼が離婚した後に、姉たちが小泉さんの子供を育てました。

小泉さんは仕事でも私生活でも兄弟だらけです。

姉も秘書で、姉と結婚した義理の弟も秘書です。

家に帰れば、結婚していない姉がいて、その姉が子供たちを育ててくれたわけです。

宿命にある星の人物とは縁がある……ここは“縁^{えん}がある”ということだけで、現在の段階^{いま}では止めておいてください。なぜなら、縁にもさまざまな縁^{えん}があるからです。

〔たとえば〕兄弟であっても、ものすごく仲が悪くて、いつもイガミ合っている、いつも喧嘩している、という状況があっても、縁のひとつです。

「私は兄弟と何十年も、ずっと争い続けています」そういう縁もあるからです。

〔仲の良い関係で縁ができるのか〕〔仲が悪い関係で縁ができるのか〕それは本人の宿命と、相手の宿命との相性を観ないと解りませんので、闇雲^{やみくも}に論じることはできないのです。

〔たとえば〕女性で夫の星がたくさんあるとか、子供の星がたくさんあるとか、そういう宿命の人もあります。夫の星がたくさんあれば「夫に縁があります……」とは、

いえませけど、さまざまな読み方ができるのです。

それゆえに「貴女は結婚で幸せになりますよ」といったとしたら、それは間違いです。

夫の星がたくさんあるということは「夫と大変に縁の深い人生です」とまではいえませけど、それがどのような縁なのかわからないのです。

〔夫に毎日泣かされて過す〕そのような人生でも、夫に縁があるのです。

〔善^よい夫に巡り合って、その夫と仲良く暮らす〕そういう人生でも、夫に縁があるといえます。

どういう縁なのか、それぞれの宿命を観ないとわからないわけです。

☞ 子供の星がいくつもあるから、「よい子に恵まれますね」そのように占って、正しいとは決まっています。

子供の星がたくさんあれば、子供との縁が深い人生になりますけど、それだけではどのような縁なのかわかりません。子供の宿命を観ることで、はじめて論じることができるわけです。 ➡

〔たとえば〕 親が子供から迷惑をかけられるとか、子供で一生苦勞する。そういう人生かも知れないわけです。

“縁がある” そこにはさまざまな意味合いが横たわっています。そのように考えておいてください。

のちのち
後々、人物の觀方をまなびます。

〔結婚した相手と自分の相性がよいとか悪いとか……〕

自分の実^{じつ}の子供であっても〔この子とは気が合うけど、この子とは気が合わない〕とか、そういうことも理解できるようにになります。

⇒ 貫索星が人体図にある人の〔ものの考え方〕です。

とくに主星が貫索星

思考法 ⇒ 垂直思考



深くて狭い

貫索星の人は“すいちよくしこう垂直思考”といわれています。

物事をじっくりと深く考えるタイプです。

落ち着いて、時間をかけて思考するタイプですけど……

頑固なので、幅広く融通性のある考え方は^{にがて}苦手です。

どうしても狭い考え方になってしまう傾向があります。

ススっと状況に応じて、^{りんきおうへん}臨機応変とはいかないのです。

それが良いとか悪いとかを論じているのではないですよ。

貫索星の考え方の質なのです。

☞ どなたの人体図にも「十大主星」は5星でできます。

人体図の出し方はまだやっていませんが、5つ出てきて、

おなじ星がいくつもあつたりしたら、[小泉氏は貫索星3つ

ありました] 貫索星に限ったことではなくて、おなじ星が

いくつも出てきたら、その星は宿命の特徴です。

＊ 向井千秋 (宇宙飛行士) 1952(s27)5-6

	壬	乙	壬		貫索星	天庫星	1 甲辰
寅	子	巳	辰	石門星	車騎星	調舒星	12 癸卯
卯		戊	乙	天将星	調舒星	天馳星	22 壬寅
		庚	癸				32 辛丑
	癸	丙	戊				42 庚子
							52 己亥

主星

↑

☞ 人体図におなじ星がいくつも出ていなくても、主星という場所があります。

主星に載っている星は、その星の意味合いが強くなります。

向井千秋さんの主星は〔車騎星 しゃきせい〕です。

人体図の主星

おなじ星が複数ある

特に強く出る

向井さんの人体図の主星は車騎星ですから、その意味合いが特に強く出ます。車騎星は攻撃本能の（陽星）です。向井千秋さんは「女という殻に閉じこもらず、自分として戦っていくべきだ」と語っています。まさに主星が車騎星の姿です。

あるいは、おなじ星が複数ある場合も、星の意味合いは、特に強く出ます。良い悪いは論じていませんよ。

	車騎星	
		車騎星
	車騎星	

車騎星が3つあります。

こういう人は車騎星の意味が

強くでると考えます。

☞ 人体図には五つの場所があります。

どなたでも十大主星のなかの5つが人体図に載ります。

5つが全部、違う星だったりする人もいるわけです。

全体を総合して、その人の人体図の特徴は何なのか……

ということを見つける方法があります。

それはもう少し後^{あと}に出てきます。

つぎは〔石門星〕です ➡

☆ 石門星

石門星 ⇒ 守備（陰）

石門星は（陰）の守備本能です。

自分を守るときに、まわりと協調して守ろうとします。

そこに相違点や利害があっても、まわりと協力しあって自分の立場を守ろうとします。

守ることに向かって、自分から歩み寄ります。

石門星は〔協調・協和〕の星といわれていますように、そこが特徴的な部分です。

まわりの人たちと友達になるのが得意ですから、集団をつくるのも上手です。

石門星を1個でも人体図にもっていけば、そういう質があります。

さきほどの貫索星で説明したのとおなじ考え方です。

〔たとえば〕人体図の主星（真ん中）が石門星になっていたり、あるいは、石門星がいくつもあつたりすると、特に石門星の性質が強くなります。

人と付き合うのが上手でないと、協調・協和の質があるとはいえません。

社交性がある ⇒ 人付き合いが上手

石門星が主星だとか、あるいは、石門星が複数あるとすれば、基本的にどのような人物とでも友達になれます。しかし、誰とでも友達になれるから、誰とでもうまくいくのか……それは別です。

それは相手との相性とか、お互いの状況によります。

石門星の質は、自分一人で、自分を守るより、まわりと一緒にになって守ってもらい、みんなと一緒に何かをやりましょう。そういうやり方が合っています。

それゆえに、おなじことをやるにしても……、

1人で行動するよりも、集団行動のほうが好きで得意
単独行動するよりも、集団行動が好きだし得意です。

〔たとえば〕どこかへ遊びに行くというときでも、一人で行くよりも、何人かの友達と遊びに行ったほうが楽しいと思うし、集団行動が好きです。

ひと
独りでやるより、みんなと一緒にがいい、そういう性格の人といえます。

仲間との交わりが好きで、誰とでも友達づきあいができますから、みんなを誘って、みんなを集めて、何かをすることが得意な人です。集りをまとめることもできます。

集団のまとめ役になれる

社交性があって、人付き合いがよくて集団行動するのが好きだし、得意ですとっていますが、協調・協和について考えていただきたいのです。

〔たとえば〕 Aさんという人がいます。そのAさんはとても偉い人です。あるいは、すごく威張っている人です。どちらでも結構ですが、そのAさんが「あっちへ行く」といったときに、まわりの人が一緒にくっ付いて行った。それは協調・協和といえるのでしょうか……？

その姿はAさんに従っているだけ、本当の意味での協調・協和とはいえないとおもいます。

そうしますと、本当の協調・協和とは、どういうことなのかということになります。

参考・協調〔①利害の対立する者同士がおだやかに相互間の問題を解決しようとする。②性格や意見の異なった者同士が互いにゆずり合って調和をはかること〕

参考・協和〔心をあわせ仲良くすること〕

算命学では〔自分の考え方を相手にわかってもらって、納得したうえで共に行動する〕 そのように考えています。

・子供の頃に、ガキ大将がいて、その子は体が大きくて強くて、「お前こっち来いよ」そういわれて、逆らえないからついて行っただとすれば、本当の協調とはいえないはずです。強い人が、弱い人を無理矢理引っ張ってきても、それは協和とはいえないはずです。

・ガキ大将の子がいて、こうやって一緒に遊んだほうが楽しいじゃん、とかの説明をして、相手にわかってもらったうえで、お互いにおなじような気持ちで、一緒に遊ぶのであれば、協調・協和といえるでしょう。

ところが、相手を無理矢理に引っ張ってきて、その人が仕方なくついて来るのは、協調にならないわけです。

石門星は自分の考え方を、相手に納得してもらいたいとする協調・協和の星です。そのチカラをもっています。

説得力がある

〔たとえば〕友達同士の関係でも、④さんが誘うと多数の人がついてくるけど、⑤さんが誘うと1人2人だけしかついて来ない。そのようなことってありますよね。

石門星の人が、みんなを誘うと、割とみんなついて来るといことが起こります。

自分の考え方を相手に理解してもらって、相手を納得させる、そういう質をそなえています。

ゆえに、本当の意味の協調・協和ができるわけです。

おなじことをいうのでも、ほかの人がいうよりも、石門星の人からいわれたほうが心にひびくのです。

また、おなじ文句を言われるにしても、石門星の人から文句をいわれると、相手は強く感じるそうです。

良くも悪くも、説得力をもっています。

竹下登・前総理〔相手をほろっとさせる名人〕だそうです。

＊ 竹下 登 1924(T13)-2-26 [2000-6-19] 76 歳没

				3 壬子
乙 丙 甲		石門星	天胡星	13 癸丑
申 亥 寅 子	玉堂星	石門星	龍高星	23 甲寅
酉 戊	天極星	調舒星	天将星	33 乙卯
甲 丙				43 丙辰
壬 甲 癸				53 丁巳
				63 戊午
				73 甲戌

主星が石門星で、第四命星も石門星です。

互いの考え方を理解し、納得させたうえで、おなじ道を歩むとか一緒に行動を起こさせる力量があるといえます。

誰とでも協調できます。ということは、誰とでも友達になれます。ともいえるわけです。

誰とでも友達になれる

これは石門星の良さでもあるのですが、悪く出る場合もあります。

特に目上の人に、あたかも友人のように親しく接して、

その人を説得しようとしたらどうなりますか……生意気だと思われませんか。

協調・協和の質を見境なく、誰に対しても出してよいとはいえません。

石門星は、上司とか、偉い立場の人にも、あたかも友達のように接してしまう面があります。

目上からは生意気にみえやすい



目下や友達から見ると頼もしい

目下とか、あるいは友達から見ると、誰とでも仲良しからすごく頼もしい人だ。となるでしょうけど、目上の側からは生意気だと思われるでしょう。

石門星に生意気なつもりはないのですが、相手と協調しようする本能が強いので、この基本姿勢で接してしまうわけです。

そのために、目上の人とか、立場が上の人と、ぶつかりやすくなってしまいます。

それは、石門星が反骨ともいえる質を有するからです。

参考・反骨〔権威・権勢に容易に人に従わない気骨・気概〕

目上に対して、反骨の気持ちが出やすい

目上に対して、反骨^{はんこつ}ともいえる質が出やすいのです。
これは石門星のもっている、内面の強い部分といえます。
協調・協和の星でありながら、隠れた内面をもちます。

どのような人にも、対等の意識をもっている

誰とでも協調できる、誰とでも友達になれるというのは、
どの人に対しても〔自分と相手は対等〕そういう意識を
もっているということです。

目下の人と対等に付き合うと“話せる先輩”というふう
にもなるはずです。

しかし、目上の人に対等の意識をもてば、生意気で扱い
にくい目下だと思われてしまうでしょう。

そうなるとぶつかることになりやすいわけです。

目上のほうが偉そうな態度であっても、石門星は対等だ
と思っていますから、どうしても反骨が芽をだします。

参考・対等〔互いに相等しく、優劣の差がない〕

石門星は協調・協和の星だといっても、いつもみんなと仲良くするという意味とは違います。

誰とでも友達になれますけど、内面には気が強い反骨の気持ちが横たわっています。

性格や意見の異なる者が、互いにゆずり合って、調和をはかろうとする協調の星だからこそ……内面に潜む反骨がでてきて、人とぶつかることもあるわけです。

⇒ ここからは「仕事」ということで考えます。

協調・協和の星は、一人ぼっちで仕事をする部署に配置されると持ち味を発揮できません。

石門星 ⇒ 組織のなかでの仕事にむく

説得力があり、まわりをまとめる質も内在していますから、会社など、組織のなかで働いていると、この人物を中心とした仲間関係ができてきます。

そうしたなかで、石門星のもつ資質を活かしていくと、仲間のあいだで中心的存在に浮かび上がってきます。

組織の中心的存在になれる

ということは、自分で組織をつくり上げるようなことをするのによいですね。

自分で組織をつくったほうがよい場合もある。

人体図をだして、主星に石門星があるとか、主星ではないけど、2つも3つもあるとか、そういう人は、組織のなかで生きると出世していきます。

政治家ということでは、政治の世界は組織をつくらないといけません。

それゆえに、組織の中心的存在になれる人物のほうが、政治の世界で伸びやすいといえます。

政治家に限りませんが、政治家にも向いている星ともいえます。

政治家にも向く

* 小沢 一郎 1942(S17)-5-24

						5 丙午	
	丁	乙	壬		牽牛星	天禄星	15 丁未
申	丑	巳	午	鳳閣星	石門星	鳳閣星	25 戊申
酉	癸	戊		天庫星	龍高星	天将星	35 己酉
	辛	庚	己				45 庚戌
	己	丙	丁				55 辛亥
							65 壬子
							75 癸丑

* 安倍 晋三 1954(S29)-9-21

							6 甲戌
	庚	癸	甲		禄存星	天恍星	16 乙亥
申	辰	酉	午	龍高星	石門星	玉堂星	26 丙子
酉	乙			天印星	調舒星	天将星	36 丁丑
	癸		己				46 戊寅
	戊	辛	丁				56 己卯
							66 庚辰
							76 辛巳

❖ 小沢一郎さん 主星〔石門星〕です。

❖ 安倍晋三さん 主星〔石門星〕です。

⇒ 小泉純一郎さんに石門星はありません。

小泉さんは、協調・協和で派閥をまとめて組織をつくるというタイプではないわけです。

そうしますと、〔石門星〕が1個もなく、政治家になるのであれば〔組織作りとか、組織をまとめる役割〕とかには、ほかの人間に任せればよいのです。

〔たとえば〕人体図に石門星が1個もない人物が、自分で会社を興おこす。そういう生き方をすることも、当然あるわけですから、自分で会社をつくったら、人間関係とか、組織をまとめるのを、石門星をもっている人を雇用して、その人にやってもらおうとよろしいですね。

ただし、石門星があるからといって、だれでも良いという意味ではないですよ。

❖ ホンダの創業者・本田宗一郎氏の主星は石門星です。

❖ カルロス・ゴーンの主星は石門星です。

☞ 人物で考えますと：

石門星の人物 ⇒ きょうだい・友人

この部分は貫索星とおなじです。

「十大主星」貫索星・石門星は〔兄弟・友人〕の星です。

思考法 ⇒ 水平思考

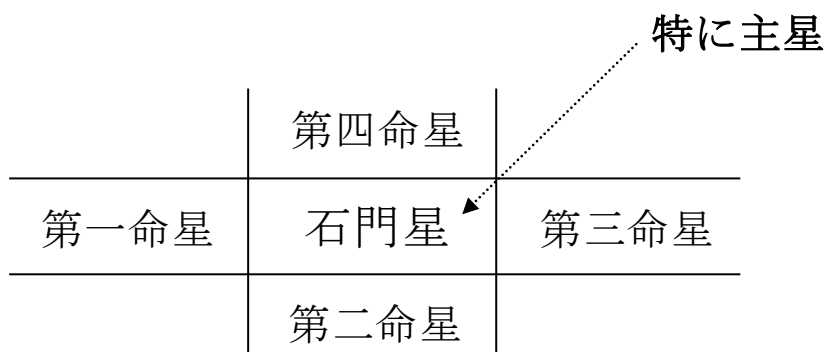


広くて浅い考え方をする人

幅広い考え方をするのですが、その一つ一つについては浅いです。

どのような人とでも、友達になれますし、仲良くすることが可能ということは、考え方も幅広くないと、いろいろな人に合わせられないのです。

☞ 思考法は人体図の〔主星〕でみます。



ここでは、人体図の主星に〔石門星〕が出ていますが、
どなたの人体図にも、「十大主星」が載る場所は5つあり
ますから、星は5つ出てきます。

そして、人体図に5つの星が載っているとすれば、それ
ぞれに違う意味があります。

ただし、特に主星として出ている星の意味合いというの
は、その人物の思考法として強くでます。

つまり、主星が石門星の人は、広くて浅い考え方をする
人といえるわけです。

悪くいえば、考え方が浅いので、意見をコロっと換^かえたり
することもあります。

これは欠点ということではなくて、石門星の特徴です。
よいとか悪いとかを論じることはできません。

さきほど、政治家の宿命を書きましたが、政治家という
職業は、あっちへくつついたり、こっちにくつついたり、
そして意見をコロコロ変えたりもします。

算命学的に考えれば、そのようなことが多くても、当然
なわけです。それは星がさせているからです。

小沢一郎さんの主星は石門星です。

民主党の元代表の岡田克也さんの主星も石門星です。

元々は、二人とも自民党です。

それが自由党つくって、また民主党に行つてと、あつちと協調したり、こつちと協和したりしたわけです。

それを上手にできるのが石門星の質であり、よさでもあります。その姿が悪いとはいえないのです。

＊ 岡田 ^{かつや} 克也 1953(S28)-7-14

			3 戊午	
丙 己 癸		牽牛星	天禄星	13 丁巳
戌 寅 未 巳	貫索星	石門星	禄存星	23 丙辰
亥 戊 丁 戊	天貴星	調舒星	天堂星	33 乙卯
丙 乙 庚				43 甲寅
甲 巳 丙				53 癸丑
				63 壬子
				73 辛巳

【初年】 29回目【十大主星特性①】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 30回目【十大主星特性②】 鳳閣星・調舒星